

令和3年3月25日

国立大学法人奈良女子大学

学長 今岡 春樹 殿

国立大学法人奈良女子大学学長選考会議

学長の業務執行状況の確認について（報告）

学長選考会議は、学長の選考及び解任手続きに関する規程第8条の定める所により、会議を重ね、学長の業務執行状況の確認（以下「確認」という。）を行なった。第3期中期目標期間の第4年度(2019年4月～2020年3月)に当たる令和元年度をその対象とした。確認は、上記規程第8条に規定する通り、国立大学法人評価委員会による評価結果、国立大学法人奈良女子大学監事監査報告、学長による自己評価書をもとにした。

国立大学法人評価委員会による令和元年度の評価結果においては、

- ① 全体評価として、第3期中期目標の達成に向けて、学長のリーダーシップの下、奈良教育大学との法人統合、関西文化学術研究都市との連携や生活工学分野における諸活動を踏まえて、女性みの工学部設置構想を具体化するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいる点が、評価された。第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」については、ユニット「文理を超えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成」に関する取り組みの一環として、理系女性教育開発共同機構と各附属学校が協力して、女子の理工系科目への興味・関心を高める研究を進めるため、「理数研究会」を定期的に開催し、その研究成果の「理数シンポジウム」における発表、附属中等教育学校ウェブサイトでの公開を通じて、全国に発信していること、ユニット「大和・紀伊半島から世界へ、世界から大和・紀伊半島へ、教育研究のグローバル化の推進と地方創生」に関する取り組みの一環として、学生の大和・紀伊半島地域への関心を高めるため、大和・紀伊半島学研究所、吉野郡東吉野村、紀伊半島研究会の共催により、研究者のみならず地元住民も多数参加する形で、シンポジウムを開催、学生の同地域への関心を高める機会を創造することにより、法人の機能強化に積極的に取り組んでいる。
- ② 項目別評価では、（1）業務運営の改善及び効率化（2）財務内容の改善（3）自己点検・評価および情報提供（4）その他業務運営 の全項目に関し、「順調」との評価が与

えられている。

全体評価並びに項目別評価共に、本学の運営を評価しており、『学長のリーダーシップの下（令和元年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）原文）』、平成29年度、平成30年度に引き続き、順調な運営が行われているとの認識は、概ね共有されている。法人評価委員会による評価対象に含まれない業務では、

- ① 令和2年度に向けた「成果を中心とする実績状況に基づく配分」と「3つの重点支援の枠組みによる配分」による運営費交付金の再配分率につき、前者が指標毎で、85%～110%と一部100%を下回ったものの、後者は前年度97.9%から100%と、改善されている点は、評価される。前者については、学長の自己評価書にもあるとおり、大学の基本的な部分「教育と研究」の評価が低いのは、相対評価とはいえ、問題であり、学長のみならず、教員個々が問題意識をもって大学総体として改善に当たることを期待するとの意見がある。
- ② 第3期中期目標期間の4年目にあたり、学長としてのリーダーシップを発揮しながら、奈良教育大学との法人統合、「奈良カレッジズ」構想、工学部設置等 重要課題の実現に向け、着実な歩みを進めているとの意見、変革を好まない学内の風潮の中にあっても、信念を変えることなく着々と進めていることを評価するとの意見、一法人複数大学制度の導入という長期戦略的な大学改革のテーマに取り組み、着実に法人統合に向けた施策を進めてきた点は、高く評価できるとの意見 等の意見がある。一方で、法人統合については、「合意書」締結以降、具体的な作業が進まず、全ての議論が令和2年度に持ち越されている感があるとの意見、工学部設置については、広く全学的な理解と支援が得られるよう、更なる努力が必要との意見、学内教職員への説明・動機付けが十分行き届いていない状況も懸念され、継続的な改善努力が望まれるとの意見 等の意見がある。学内構成員への説明内容、タイミングの工夫等、継続的な改善を期待するとともに、全学的な協力体制が構築されるよう、強く願うものである。
- ③ 科学人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に応募し、採択された点 並びに、大学のグローバル化推進の見地から、海外派遣留学生と受け入れ留学生の数値目標を大幅に達成した点は、高く評価できる。

国立大学法人奈良女子大学監事監査報告については、学長の業務執行状況に関し、特段に問題となる記述は見いだせなかった。

以上ならびに、学長による自己評価書も併せて総合的に勘案し、本会議は、教育、研究、管理運営、いずれの点に関しても、学長は順調に業務を執行しているとの結論に達し、その旨を報告する。